

日本技術士会北海道本部

第49回 技術士全国大会(愛知・中部) 報告

小澤達也

1. はじめに

第49回技術士全国大会は、2023年11月17日(金)～20日(月)の4日間、中部本部が担当し、愛知県名古屋市で開催されました。2020年に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により延期され、3年越しの開催となりました。全国からの参加者数は500名以上、北海道本部からは30名以上が参加し、活気あふれる大会となりました。

2. 大会の概要

(1) 大会のテーマ及び大会宣言

今回のテーマは「地球を守る、社会を守る、求められる技術士の活躍～新たな発見に向けて～」でした。製造品出荷額42年連続全国1位の愛知県は、肥沃な濃尾平野を背景に水運や陸路が発達し、豊かな経済力が生まれ、その経済力が知的探究心を育て、農業、工業、商業など多様な産業技術を支えてきました。多様化する「技術士像」の探究、新たな発見に向けた行動のスタートアップを掲げております。

大会宣言では、上記テーマのもと、技術士倫理綱領に立ち、社会、ひいては地球のより安心できる未来に資するため、愛知・中部において、伝統的な製造方法や文化、さらに最先端の技術を共有し、得られた知見を未来へ引き継ぐすべを協議し、新たな技術・文化と融合していくための礎を築いていくことを、中部本部の赤崎みどり技術士(航空・宇宙部門)により宣言されました。

1. 多様化する課題に21部門の専門技術で幅広く対応しつつ、固別の専門域にとどまらない事象には、横断的な技術と柔軟な活動で取り組み、克服を図ります。

2. 持続可能な社会に向けて、新しい技術分野を

積極的に開拓するとともに、社会へのリスク評価により今ある、また未来に生じうる公衆の不安を軽減するための最適解を見極め、必要な技術の研鑽に尽力します。

3. 事業がグローバル化する中で、ジェンダー平等と国際的な視点を保持し、地域固有の様式文化を把握、尊重し、共存の方法を模索します。

(2) 会場

大会会場は、メイン会場を「名古屋国際会議場」とし、交流パーティーは



写真-1 名古屋国際会議場

「ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋」で開催されました。「名古屋国際会議場」は、コンサートホールも併設された大規模な多目的施設です。

(3) スケジュール

【11月17日(金)】専門会議(部会)・連絡会議／技術展示／ウェルカムパーティー

【11月18日(土)】第1～第4分科会／大会式典／分科会報告／歓迎演奏／記念講演／技術展示／大交流パーティー／パートナーズツアー

【11月19日(日)】テクニカルツアー(日帰り)

【11月19日(日)～20日(月)】テクニカルツアー(1泊2日)

3. 全国大会

(1) 大会式典

大会式典は、名古屋国際会議場の白鳥ホールにて開催されま



写真-2 大会式典会場

した。式典の流れは次のとおりです。

開会挨拶(中部本部長)→式辞(会長)→祝辞(文部科学大臣)→来賓挨拶(3名)→来賓紹介→祝電披露→大会宣言→閉会挨拶(大会実行委員長)。

来賓挨拶では、予定されていた3名に加え、与党技術士議員連盟渡海会長のお祝いメッセージ(事務局局長の新妻参議院議員より代読)がありました。

(2) 記念講演

記念講演は、「愛知の産業発展の歴史—ナゴヤのものづくりの多様性—」と



写真-3 林教授

題し、南山大学経済学部林順子教授が講演されました。林教授は、南山大学経済学部教授、経済学部長を歴任され、尾張藩や水上交通史に関する多くの著書の執筆、名古屋郷土分科会理事、自治体史「新修名古屋市史」編纂など、愛知の経済、文化に深く関わっておられます。

講演では、名古屋城が名古屋台地の北端にあり、名古屋台地に城下町が築かれたことに触れたうえで、名古屋をとりまく地理的歴史的環境を語られました。その中で、名古屋が関西圏・関東圏の双方に近いこと、陸上・河川・海上交通で全国に繋がるルートがあること、森林資源が豊富(木曽山)、尾張平野の存在(特に稲作の適地)といった「立地の優位性」を背景に、規模の大きい尾張藩の城下町において人口の増加と市場の大規模化により、江戸時代に市場経済が成長したことを挙げられました。17世紀半ばからは近郊・他領からの移住などで商人が集まるようになり、その多くが幕末には尾張藩の御用達商人になったとのことでした。また、尾張の近代化において、旧藩の上層部や旧尾張藩の御用達商人などが、資金面の援助の役割を担ったとの説明がありました。最後に、昭和14年の東洋経済新報の「中部日本の経済は特色が鮮明でない」「内容の多様性において九州、北海道とはるかに趣をことにしている」「偉大なる未完成地帯」という記事を参照し、経済内容の多様性は次の新しい経済状態を約束し醸成すると結ばれました。

(3) 大交流パーティー

大交流パーティーは、会場を ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋のザ・グランコートに移し、立食形式で約270名の参加者を迎え開催されました。

黒崎会長の開会挨拶の後、東海国立大学機構の機構長の松尾氏による乾杯で宴が始まりました。



写真-4 交流パーティー会場

開宴後、久々の立食による全国の技術士同士の交流が活発に行われ、パーティーの後半では余興「ワクワク サウンド メーカー」による演奏が加わり、コロナ前の状況に戻ったことを実感しました。

宴も終わりに近づき、次回の札幌大会のテーマや北海道の魅力についてPRを行い、最後に北海道からの参加者がステージに上がり、次回の参加を呼びかけました。

(4) 分科会

式典前の午前に4つの分科会が開催されました。以下に各分科会の内容を示します。



写真-5 第1分科会会場

- 第1分科会【防災】：改めて自然災害を知り、技術士として考える
- 講演1：戸田祐嗣氏(名古屋大学 大学院工学研究科 土木工学専攻 水工学講座 教授)
「気候変動時代の豪雨災害に備える」
 - 講演2：福和伸夫氏(名古屋大学名誉教授、あいち・なごや 強化共創センター長)
「南海トラフ地震を乗り越えるために
～着眼大局着手小局、温故知新、居安思危、
知彼知己百戦不殆で転禍為福～」

■第2分科会【環境・エネルギー】：エネルギーや環境についての課題に取り組むため、我々技術士は何を学び、どう貢献すべきか。

●講演1：長島奈緒氏(豊田市役所 未来都市推進課 副課長)
「SDGs 未来都市とよたの取組

～SDGs 達成に向けた行動の加速化を目指して～」

●講演2：成瀬一郎氏(名古屋大学 未来材料・システム研究所教授)
「資源・エネルギー・環境論

～環境制約から資源制約へ～」

●発表：井上祥一郎氏(技術士：森林、衛生、上下水道、農業、水産、建設、応理、環境)
「公益確保の責務視点の環境・エネルギー技術 ～生態系サービス利用経験技術と進化視点の新技術観～」

■第3分科会【青年】：ついついしたくなる仕掛けで社会課題を解決するワークショップ

●講演&ワークショップ：齊藤哲哉氏(BIPROGY 株式会社総合技術研究所)
「ついついしたくなる仕掛けで社会課題を解決するワークショップ～視座を変える思考プロセスのつくりかた～」

■第4分科会【ジェンダー】

●基調講演：弓削尚子氏(早稲田大学法学部 教授)
「自分らしく生きるために

～歴史からジェンダーを考える～」

●技術士報告：小松加奈氏(技術士：経営工学)

●グループディスカッション

4. 関連行事

(1) 建設部会意見交換会

建設部会では、例年全国大会の日程に合わせて意見交換会を開催し、各地域本部からの代表が集まって活動報告や意見交換会を実施しています。今年は、全国大会初日の午後に、名古屋国際会議場2号館で開催されました。

北海道本部では、傘下に専門部会を設置しておりませんので事務局が代行して建設部会に参加しましたので、開催概要を報告します。

【議事次第・概要】

1. 建設部会運営方針(松岡部会長)

～活動活性化、CPD 制度の適正な運用、CPD プログラムの充実、全国組織との連携について

2. 建設部会活動報告(平川幹事長)

～部会員数の動向、幹事会における委員会活動、全国連携活動、協会活動の活性化活動、CPD 活動について

3. 地域本部活動報告及び質疑応答(北海道、東北、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州各地域本部)～各地域本部の活動状況、部会への意見・要望・提言等について

4. 部会と地域との連携についての意見交換(平川幹事長)

5. 技術士制度検討委員会の報告(中川委員長)

～IPD システム構築、新・技術士 CPD 制度の登録状況と今後の予定について

6. 技術士資格活用委員会の報告(増野副部会長)

～産業界活用推進、公的活用推進、国際活用促進の3チームの活動状況と今後の展開について



写真-6 建設部会会場

(2) ウェルカムパーティー

式典前日に開催されたウェルカムパーティーは、名古屋国際会議場の白鳥ホールに300名近くの参加者が集い、立食形式で開催されました。



写真-7 ウェルカムパーティー

が集い、立食形式で開催されました。

黒崎会長の開会挨拶の後、与党技術士議員連盟事務局長の新妻参議院議員による乾杯で宴が始まりました。途中、余興「木管五重奏アンディヴィ」による演奏があり、最後は大会実行委員長・野々部顕示技術士の閉会挨拶でお開きとなりました。

(3) テクニカルツアー(1泊2日)

大会式典・記念講演の翌日からテクニカルツアーが催行されました。今回のコースは、日帰りが「交通・産業文化と名古屋城」〔トヨタ博物館・NEX プラザ・徳川美術館・名古屋能楽堂・名古屋城〕、1泊2日が「愛知・岐阜 航空産業めぐり」でした。私は1泊2日コースに参加しました。参加者は15名で、北海道本部からは私を含め5名でした。

①あいち航空ミュージアム

県営名古屋空港内にある、航空機のミュージアムです。自動車産業に次ぐ産業の柱として期待される

航空機産業の歴史や航空機の仕組みなどを説明する展示、国産旅客機 YS-11、ブルーインパールの練習機 T-4 など計 8 機の展示がありました。



写真-8 あいち航空ミュージアム

②国宝 犬山城

犬山城は、天文 6 (1537) 年に築城され、信長・秀吉・家康がそれぞれの時代に犬山城を手にしたことで天下人への道を切り開きました。天守は明治 24 (1891) 年の濃尾地震で被害を受けた後、旧城主の成瀬氏に譲渡され、多くの市民からの義援金により修復されたもので、現存する日本最古のものです。当日は快晴で、天守からは犬山の町並みや名古屋方面、木曽川の対岸 (岐阜県側) など素晴らしい景色を眺めることができました。



写真-9 犬山城

③岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

各務原で生産され世界に唯一現存する「飛燕」などの実機 41 機、実物大模型 15 機が展示され、展示面積



写真-10 屋内の実機展示

9,400m² を誇る、航空と宇宙の専門博物館です。各務原市は、現在運用している国内最古の飛行場 (航空自衛隊岐阜基地) があり、航空機産業とともに発展しました。また、航空機産業のノウハウを応用した宇宙産業も盛んです。館内には数々の航空機の実機が年代毎に展示されていました。また、H-II ロケットのフェアリング (空気抵抗や熱から守るカバー) やエンジンの実物などが展示され、宇宙技術の歴史と最新技術を体感しました。

④明治村

明治村は、震災や戦災、再開発などで失われていく明治建築を保存展示する野外博物館で

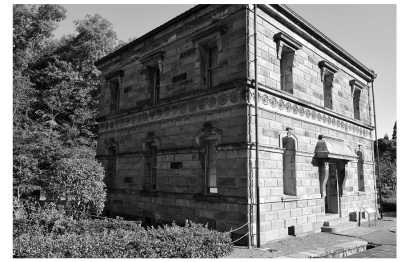


写真-11 札幌電話交換局

す。小学生の遠足など地域でも親しまれており、60 以上の建造物が移築保存されています。北海道関係では、札幌軟石で造られた札幌電話交換局が移築され、昭和 40 年の開村と同時に公開されています。

⑤中部国際空港 (フライトオブドリームズ)

フライト・オブ・ドリームズは、ボーイング 787 初号機の展示をメインとした複合商業施設です。1 階「フライトパーク」の入場無料エリアを見学しました。



写真-12 ボーイング 787 と参加者

5. おわりに

今回、私は初めて全国大会に参加し、今回のコンセプト「『歴史ある愛知・中部の多様な知性 (技術) と感性 (文化) 』を届ける」のとおり、中部地域の技術と文化に一部でも触れることができました。

次回の技術士全国大会は 2024 年 10 月 4 日 (金) ~ 7 日 (月) に札幌で開催いたします。中部大会は、私には過去から現在に焦点が当たっていたように感じましたが、北海道大会は現在から未来に向けたテーマを掲げております。共創の大地・北海道で技術士の挑戦に繋がるよう、頑張りたいと思います。会員・会友の皆様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

小澤 達也 (おざわ たつや)

技術士 (建設部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

